

やってきた生き物たち

池には、まず田んぼの雑草や湿地の植物などが生えはじめ、そこをすみ場所とするカエルや昆虫がやってきます。生き物たちの種類が増えてくると、互いに“食べる”“食べられる”という関係がなりたち、一つの生態系ができあがってきます。

植物

もともと田んぼだったこの場所では、セリやコナギなどの田んぼに多い雑草や、ミゾソバやハッカなど田んぼの周囲の湿地に生える植物が多くみられます。これらの植物は昆虫などのえさになり、また昆虫が植物の花粉を運んでくれるなど、相互につながりを持って生活しています。



植物を利用する昆虫など

植物が増えてくると、チョウやハチの仲間が蜜を吸いに花にきたり、チョウやガなどの幼虫が植物を食べている姿も見られます。また、トンボの仲間も植物を羽化や産卵の足場にしたり、休憩場所や隠れ場所に利用しています。そして、それらを狙うクモやカマキリなど肉食の虫もやってきます。



その他の動物

新しい池でもカエルはすぐにやってきてすみつきます。カエルが増えると、それを狙ってヘビやサギなどもやってきます。カルガモなどの水鳥が翼を休ませる姿も時々見られます。一部干上がった泥の上にサルとタヌキの足跡が残っていたこともあります。



特別天然記念物
魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814

TEL: 0765-22-1049

<http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>